



編集・発行
県南教育事務所



「まなざしの向こうに」

県南教育事務所長 阿部 央

5月17日(木)、多くの視線に圧倒されそうになりながら、県南中学校陸上競技大会開会式であいさつをしている自分がいた。残念ながら競技を観戦することはできなかったが、後日、男子では2年100メートルをはじめ6種目、女子では共通800メートルと共通砲丸投げの2種目で大会新記録が樹立されたことを知った。開会式の選手たちの態度から、この結果は十分にうなずけるものであった。

6月6日(水)、体育館内は張り詰めた空気に包まれていた。一人の女子選手が背筋をしっかり伸ばし、十数メートル先を真剣なまなざしでじっと見つめていた。数秒後、彼女は助走を開始し、踏み切り板を力強く踏み込むと跳馬に一瞬手をつき、きれいに前方宙返りをして着地した。出場全選手の跳馬の演技が終了すると、審判員の方からのアドバイスが始まった。選手たちは視線を真っ直ぐに審判員に向け、食い入るような表情で話を聞いていた。何でも学びとろうとする真剣な選手たちの姿に身震いした。中体連県南総合大会体操競技で目にした光景である。

6月7日(木)、教室に入ると「こんにちは。」という元気なあいさつで迎えられた。これまでも何度か高校の授業を参観させていただくことはあったが、高校生に元気な「こんにちは。」のあいさつで迎えられた授業参

観は初めてだったので驚いた。一つのクラスを習熟度別に二つに分け、どちらもチームティーチング方式での英語の授業が行われていた。担当教師と生徒たちの言葉のキャッチボールが楽しげで、生徒たちは生き生きと学習に取り組んでいた。ここでも生徒たちの視線はしっかりと教師に向けられていた。そして表情がとても穏やかだった。

私は、子どもたちの活動の様子を観察するとき、子どもたちの視線と表情に注目する。学級担任や数学担当として子どもたちと関わっていたときもそうだった。視線と表情は子どもたちの心理状態をよく表している。指導者にしっかりと視線を向け、真剣な表情で話を聞いたり、穏やかな表情をしたりしているときは、子どもたちは安心して学びに向かっている。

5月末から学校訪問が始まり、いくつかの小・中・高等学校を訪問させていただいた。今のところ、子どもたちの視線と表情が心配になった学校はほとんどない。子どもたち一人一人を温かいまなざしでしっかりと見つめ、包み込んでいる先生方に対して、子どもたちが信頼を寄せている証だと考えている。先生方と子どもたちそれぞれのまなざしの向こうに、安心して学ぶことができる学校の姿が感じとれる。

先生方の日々の取組に感謝申し上げたい。

『信頼される学校づくりが子どもを伸ばす』

不祥事防止は凡事徹底から

「信頼される学校づくりを職場の力で」【平成30年改訂版】が4月に発行されました。皆さん、お持ちいただき活用されているでしょうか。

「不祥事防止」については、毎年度のはじめから職員会議等で話題にされ、十分意識されていることと思います。しかし、残念なことに不祥事が「0」とはならないのが実際のところ。誠に残念でなりません。不祥事「0」を目指す。これは教育公務員として当然のことであり、決してハイレベルの要求をされているわけではありません。

児童生徒に「凡事徹底」を求める学校は多く、生徒指導上の基盤ともいえることです。凡事徹底とは、何でもならないような当たり前のことを徹底的にやること、凡事を非凡におこなうことです。不祥事防止に当てはめるなら、『その行為が、世間一般に申し開きができるものなのか。その行為が、児童生徒を教え導く者として胸を張れるも

のなのか。』という意識は不祥事防止の上で必要なことであり、その意識を持って行動することは、学校で働く者として「凡事」であるはず。学校から不祥事を無くすことは、信頼される学校へとつながり、その信頼の下に充実した指導がなされ、子どもたちの力を伸ばすことができるのです。信頼される学校こそが子どもを伸ばす基盤です。

どうぞ「信頼される学校づくりを職場の力で」【平成30年改訂版】を再度見直し、自己の客観視をお願いします。



【平成30年度学校事故防止研究協議会でのロールプレイの様子】

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課関連記事～

「道徳教育の充実と 教育相談体制の整備」

本年度から、小学校において、道徳の教科化が始まりました。中学校は、次年度から教科化となります。今、学校教育では「考え、議論する道徳」を実践していくことが求められています。

各種学校訪問や授業参観等で道徳の授業を実践している学校が数多くあり、各学校の先生方の高い意識を感じます。

さらに、道徳教育の充実を図るために、8月3日(金)、白河合同庁舎にて『『特別の教科道徳』の実施に向けた地区別研修会』を開催します。

また、教育相談については、スクールカウンセラー(以下SC)、スクールソーシャルワーカー(以下SSW)を配置し、体制を整備しているところです。SCが配置されていない小学校においても、中学校区のSCやSCスーパーバイザーを活用することが可能です。ぜひ、ご活用ください。また、教員自身の教育相談スキル向上のために、教育相談スキルアップ研修会を開催しております。参加された先生方には、各学校で伝達講習等を行っていただくとともに、教育相談の中心的な存在として研修の内容を学校現場でご活用されることを期待しております。

「学級・授業づくり支援と 検証改善サイクルの確立」

5月15日(火)に学力向上担当者等研修会を開催しました。本年度は、講義や協議に先立ち、義務教育課主任指導主事より、来年度から実施される「ふくしま学力調査」の説明がありました。個々の児童生徒の学力の経年変化を見取ることにより、個に応じた指導をより充実していく方向性が示されました。

また、講義「域内の学力向上に向けて」では、家庭学習スタンダードに示されている「自己マネジメント力」について協議する機会を設定しました。「自己マネジメント力とは、R-PDCAサイクルを通して自分で学習や生活を改善する力」と示されていますが、研修者が互いに対話を通してより具体的な力に掘り下げて考えてみることで、自ら取り組む主体性、自分の生活を振り返る客観性、継続できる根気強さなどの大切さが見えてきました。対話を通して考えることの重要性を再認識することができました。

今年度、県南教育事務所としましては、「確かな学力の向上」を目指し、スタートアップ訪問、要請訪問、学びのスタンダード訪問、スキルアップ訪問などで、各校に訪問させていただきます。「授業スタンダード」や「家庭学習スタンダード」をもとに、先生方との対話を通して「確かな学力の向上」のための具体策の構築に向けて支援して参ります。

「健康課題解決に向けた 基盤づくり」

今年度のふくしまっ子体力向上総合プロジェクトには、体力向上ムーブメント事業「みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト」が加わり、8月からスタートします。また、小学生対象の「ふくしまっ子児童期運動指針」も出され、下記の事業を一体的に展開することにより、「体力テストの結果」や「肥満傾向児童の出現率」を全国平均並みにすることを目標としています。

— ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト —

- ① 体力向上ムーブメント事業
- ② 専門アドバイザー派遣事業
- ③ 元気キッズサポーター事業
- ④ 食習慣、肥満等の健康教育に関する専門家派遣事業
- ⑤ 自分手帳活用事業
- ⑥ プロジェクト推進事業

5月7日(月)に開催した「小・中・高等学校体育担当者連絡協議会」では、「自分手帳」を生かしたカリキュラム・マネジメントについてグループ協議を行いました。児童生徒の健康課題解決のためには、学校全体で組織的に取り組む必要があります。県南教育事務所としましては、研修会や訪問等の機会を生かして具体的に支援して参ります。

「特別支援教育の充実と 切れ目のない支援体制の整備」

地域で共に学び、共に生きる教育の推進

「切れ目のない支援体制整備事業」をご活用ください。

特別支援学校・特別支援教育センター・教育事務所のチームで、各学校や市町村教育委員会等のニーズを踏まえた相談・研修支援を実施し、各学校等における教職員の専門性の向上を図り、特別支援教育の指導支援の充実及び校内の支援体制の整備を推進しています。今年度より、各特別支援学校に「教育支援アドバイザー」が配置され、学校や保護者へのサポート体制がさらに強化されました。手続きに関しては、県南教育事務所までお問い合わせください。

県南特別支援教育連携協議会

5月25日(金)に、県南特別支援教育連携協議会(定例会)を開催しました。本県における特別支援教育の現状と支援体制整備に向けた取組について理解を深め、各市町村での支援体制整備に向けた取組について、情報を交換しました。「個別の教育支援計画」の活用の実際について、関係機関と連携を図って作成したり、合理的配慮の明記の仕方について確認したり、さらに活用を図るための改善・見直しについての取組を共有したり、支援体制の充実に向けて具体策を協議することができました。

地域でつながる家庭教育応援事業 ～「家庭教育支援プログラム」の積極的な活用を！～

当事務所では、社会教育の重点として『家庭・地域の教育力の向上』を掲げ、県南独自の内容も取り入れながら「家庭教育応援プロジェクト」として、次の事業を展開しています。

1 地域家庭教育推進県南ブロック会議

域内の学識経験者や各団体の代表等が出席し、6月7日(木)に第1回目の会議を開催しました。協議の中で、家庭教育の課題として、「親の愛情が子どもに伝わらず、自尊感情の低さにも影響している。」「親子のコミュニケーションが不足している。」「家庭での食育に関する悩みが多い。」「心の問題が深刻で、実体験が不足している。」「すべての問題の根幹は家庭環境にあり、家庭への支援のあり方を考えていく。」などが出されました。

2 家庭教育支援プログラム【右記らし参照】

上記の会議を受け、県南独自の家庭教育支援プログラムに新たに「親子でふれあう体験教室」を加えました。PTA行事や家庭教育学級充実のため、当事務所が講師の紹介をしていますので、積極的な活用をお願いします。

3 家庭教育応援企業推進活動

家庭教育に協力する企業を募集し、企業と連携して家庭教育の推進を行います。

4 家庭教育フォローアップ研修(11月予定)

域内の課題に対応した研修を行い、家庭教育支援者の実践力を高めていきます。

平成30年度 子どもをはくむ地域実践プロジェクト

家庭教育支援プログラム

PTA行事や家庭教育研修会などの講師を紹介します！

1 親子で遊ぼう 心のケア教室
(バルーンアート・ものづくり・音遊びなど)
【明日飛子ども自立の里】

3 親子で楽しむ 読み聞かせ教室
(語り 読み聞かせなど)
【読み聞かせサークル】

親子の体験活動

2 親子で体験 ニューススポーツ教室
(お・リ・グ・キ・ボ・ドなど)
【名古屋市スポーツ推進員・集けんボール連盟】

4 親子でふれあう 体験教室
(自然体験・キャンプ・レクリエーション教室など)
【国立那須賀甲子年少自然の家・福島県レクリエーション協会】

幼稚園や小・中学校、子ども会等のPTA行事、教育講演会、学年行事、親子レク等を行う際に、講師をお願いしようか困った経験はございませんか？

親の学び講座 【支援団体】

<p>1 非行防止の子育て法 【白河・県会警察署】</p> <p>2 親子で学ぶ防犯教室 【白河・県会警察署】</p> <p>3 親子で学ぶ情報モラル教室 【白河・県会警察署】</p> <p>4 子ども向き合うために 【家庭教育インストラクター】</p> <p>5 子ども心を引き出す話術 【親業サークル 輝み(きらきら)】</p>	<p>6 家庭で実践、食育講座 【福島県栄養士会・管理栄養士】</p> <p>7 お口のために歯科教室 【県南保健福祉事務所】</p> <p>8 尊重し合える人間関係 ネットでつながる 【県南教育事務所(ネット・つながる)】</p> <p>9 子どもの「やる気」を引き出すために 【県南教育事務所】</p> <p>10 PTA行事を楽しくする企画のコツ 【県南教育事務所】</p>
--	--

お問い合わせは 県南教育事務所 総務社会教育課 TEL: 0248-23-1666
【活用のお申し込みは、裏面 FAX: 0248-23-1668まで】

【地域家庭教育推進県南ブロック会議】

小学校 紹介

「すくすく育つ『まめがらっ子』

白河市立白河第四小学校

平成元年に、果樹園と緑豊かな山に囲まれた地に移転して、30年目を迎えた校舎。移転時に校庭周りに植えた桜が、春には見事に咲き誇り、子どもたちの新年度への意気込みを高めてくれています。

本校では、地名である「豆柄山」にあやかり、子どもたちを「まめがらっ子」と称して様々な活動に取り組んでいます。中でも、「まめがらっ子 10の学びのやくそく」は、本校児童すべてが守るべきものとして実践している約束事です。「床にきちんと足をつける」「相手の目を見て聞く」「名前を呼ぶときはさん・くんで」など、当たり前なことではありますが、だからこそ徹底を図り、基本的な学習習慣を身に付けさせています。

昨年度、図書館と特別支援学級が新設され、不易と流行のバランスを考慮した教育活動に努めています。187名の明るく素直な子どもたちは、「AAA(トリプルA)→あいさつ、ありがとう、あきらめない」を合言葉に、毎日楽しく、一生懸命に学校生活を送っています。



「夢の実現を地域の力で」

棚倉町立近津小学校

棚倉町では、刻々と変化する社会情勢に対応できる人間の育成を目指して幼稚園・小中学校・教育委員会が手を取り合ってキャリア教育を推進しています。本校ではキャリア教育で育む4つの力を「もとめる力」「みつめる力」「つながる力」「ふみだす力」と学力向上グランドデザインに位置づけ、一人一人が「夢」を持ち毎日楽しく学校生活が送れるように教育活動を展開することを心がけています。取り組みの一端を紹介すると、間もなくやってくる夏季休業日には、サマースクールという名称で3日間の登校日を設けています。内容は、子どもたちは学習・作文・体育・図工などのコースの中から自由に選択し参加します。子どもたちが自分の「夢」を叶えるために必要な力を知り、前向きに取り組む、成長できる機会になればと考えています。今年度は地域の力を借りて学校を盛り立てていけるように学校運営協議会を立ち上げました。地域の方々と力を合わせ、近津のキャリア教育の充実と子どもたちの「夢」の実現に取り組んでいきます。



新任の先生方から



「子どもたちにいい人生を」

棚倉町立山岡小学校
校長 伊藤 弘行

昨年、『君たちはどう生きるか』という本が80年の時を超えてベストセラーになりました。私もブームに乗り遅れまいと、すぐに購入して読みました。主人公コペル君が、色々な出来事を経験しながら成長していくお話で、その中で「生き方の指針」が語られています。

棚倉町は「キャリア教育」に力を入れています。4月に赴任し、「キャリア教育」について考えるたびにコペル君が頭の中を横切ります。「キャリア教育」を通して目の前の子どもたちが「よりよい生き方」を見出せるように全力で取り組んでいきたいと思っています。



「学校の責任者として」

鮫川村立鮫川中学校
校長 西田 英実

4月に鮫川中学校に着任し、早くも3ヶ月。学校を預かる者としてその責任の大きさを感じている毎日です。

子どもたちは地域の未来です。今、目の前にいる子どもたちが10年後、20年後に地域の「人財」として活躍できる大人に成長してほしい。そんな願いを込めて、生きる基盤となる資質・能力が身に付くよう、教職員と共に、保護者・地域の皆様とキャリア教育を推進しております。

戸惑うことばかりですが、先輩の校長先生方をはじめ皆様様に助けていただきながらその務めを果たして参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



「教頭として」

白河市立表郷小学校
教頭 唐橋 浩二

天狗山や関山、県指定天然記念物のビャッコイ、庄司戻し桜、常在院など、表郷は自然豊かで歴史がある地区です。さらに大豆の先生、村の案内人など地域の人材も豊富です。そんなすばらしい表郷に新任教頭として勤務して3か月、「子どもたちが、先生方が、保護者の方々が、『表郷小学校でよかった。』と思える学校にしたい。」という自分の目標に向かって、教頭として何ができるのか、どのような働きが必要なのかを考えながら、毎日勤務してきました。これからもこの目標の達成に向けて、日々邁進していきたいと思っています。



「嘴矢濫觴(こうしらんしょう)」

泉崎村立泉崎中学校
教頭 大塚 雄一

学校運営を中心的な立場で行い、山積する教育的課題の解決に積極的に取り組もうと教頭職を志し、今その始点に立っています。

3年ぶりに故郷の県南に赴任し、たくさん温かい声をかけられ、「地域教育の発展のために全力で取り組まなくては」という気持ちでいっぱいです。

今、働き方改革が進む中、校長先生の指導を仰ぎながら為すべきことをしっかり見定め、管理職としての責務を果たし、様々な障壁があっても志を見失うことなく邁進していきたいと思っています。



「日々成長をめざして」

白河市立五箇小学校
教諭 吉田 きらり

この春、白河市立五箇小学校に着任し、素直で優しく元気いっぱい子どもたちと出会いました。出会いの日には、緊張と期待で眠れないほどでした。もうすぐ3か月が経ちますが、子どもたちは日々様々な表情を見せてくれ、毎日がとても楽しいです。まだ未熟な私ですが、毎日目を輝かせて生活している子どもたちの期待を重く受け止め、私を温かく支えてくださる保護者の方々、地域の方々、校長先生を始め先生方に感謝の気持ちを忘れず、今後も精進していきたいと思っています。そして子どもたちと一緒に、私も日々成長をめざしていきたいです。



「教員として」

棚倉町立棚倉中学校
教諭 和田 翔太

4月に初任者として棚倉中学校に着任いたしました。新たな土地や環境に戸惑うこともありましたが、その度に多くの人に支えていただきながら、この3か月間を過ごして参りました。中学校教諭として、日々生徒の成長を身近に感じられることに大きなやりがいや喜びを感じる一方、その職務に責任の重さを感じております。

教員としての使命感を胸に、人間として成長し続けられるよう、倦むことなく職務に取り組みたいです。そして生徒一人一人の夢の実現に携わって参りたいと思います。